

## (1) 経緯・・・新聞記事からの抜書き

## (イ) 自動車製造会社の不正

日産自動車が検査で不正を行っていたと2017年9月29日に発表した。自動車は公道を走行するので、定期的に車検を行うことになっている。自動車の構造や安全について知識や経験のある者に資格を与え、資格のある者が車検を行う。自動車工場の出荷前の最終検査は最初の車検に相当し、車検と類似の資格のある者が担当する。日産自動車は長年にわたって資格のない職員に検査を行わせていた。該当する38車種116万台について再検査のためのリコールを10月6日に届け出た。10月26日にはスバルも資格のない職員に検査を行わせていたと発表し、25万5千台のリコールを届け出た。

## (ロ) 金属素材の製造会社の不正

神戸製鋼所がアルミニウム素材の一部について、試験結果を書換えて納入していたと2017年10月8日に発表した。自動車部品を製造する会社が神戸製鋼所からアルミニウム素材を購入する。アルミ缶を製造する会社が神戸製鋼所からアルミニウム素材を購入する。試験結果が売買契約の仕様書で定めた基準を満足しなかった素材について満足したように書換えていた。売買契約の仕様書で定めた素材の強度が納入先の必要な強度に比べて高く設定されており、設定を多少下回っても安全性に問題はないと説明された。その後、子会社の銅素材の一部についても同じ問題が発覚した。また、出荷していた一部の素材についてJIS規格を満足していなかったことが発覚し、JIS認証の一時停止処分や取り消し処分を受けた。三菱マテリアルの子会社が銅素材とアルミニウム素材の一部について試験結果を書換えていたと11月24日に発表した。

## (ハ) 繊維素材の製造会社の不正

東レの子会社が繊維素材の一部について、試験結果を書換えて納入していたと2017年11月28日に発表した。繊維素材を混入して補強したゴムタイヤを製造する会社が東レの子会社から繊維素材を購入する。繊維素材を混入して補強した合成樹脂製品を製造する会社が東レの子会社から繊維素材を購入する。試験結果が売買契約の仕様書で定めた基準を満足しなかった製品について満足したように書換えていた。売買契約の仕様書で定めた強度が納入先の必要な強度に比べて高く設定されており、設定を多少下回っても安全性に問題はないと説明された。

## (ニ) 試験管の製造会社の不正

旭硝子の子会社が遠沈管の一部で検査項目の1つを実施しないで出荷していたと2018年1月10日に発表した。遠沈管は遠心分離器で使われるガラス製の試験管で医療の検査で用いられる。子会社の内規で行うことになっていたDNAの分解酵素が付着していないことを確認する試験を行わないで出荷していた。

## (2) 感想

会社の技術担当の部署の朝礼で、標語「常に技術力の向上に努める」と唱えることも多いと思われる。技術力と言うとき、コンピュータや精密機械を利用した先端技術を連想し、先端技術を勉強することが技術力を高めることであると考えられる場合が多い。日本の自動車製造、金属素材製造、繊維素材製造は先端技術である。医療の検査は先端技術であり、遠沈管の製造も先端技術である。しかし、製品を安心して使うためには先端技術によって製造すれば十分と言う訳にはいかない。製造に当って、誤りなく、着実に作業することが必要である。

作業を着実に行うことを確保するために、技術の約束事を守らねばならない。作業を行うために必要な知識や経験を持つ者を明示するために、資格が用いられる。資格は技術の約束事の1つである。資格のある者に作業をさせることにより、その作業が確実に行われたことを保証する。製品の品質についてJIS規格が定められ、売買契約ごとに仕様書が定められる。内規で行うと定めた試験は納入先に提示され、品質保証したことになる。JIS規格は国家が定める基準であり、認証により国家が品質保証を行ったことになる。買い手が欲しい品質を売買契約の付属の仕様書で明示する。売買契約の仕様書で定めた強度が納入先の必要な強度に比べて高く設定されており、設定を多少下回っても安全性に問題はないのであれば、売買契約の付属の仕様書を変更する手続きを行うべきである。JIS規格も仕様書も内規も技術の約束事の1つである。技術の約束事をきちんと守ることも、先端技術を勉強することに劣らず、高い技術力である。

技術者や作業員は会社のような組織に所属し、組織で仕事をする場合が多い。個々の技術者や作業員の技術力について考えるだけでなく、組織の技術力についても考える必要がある。技術の約束事を守ると言う技術力は組織の規律と関連が深い。組織の規律は組織の長の指導によって維持される部分が多い。会社の長は経営者であり、技術者でない場合も多い。組織の技術力は技術者でない者の資質の影響も受ける。

資格を得るための勉強や経験には時間が必要であり、資格のある者の人件費は高くなる。売買契約の仕様書を満足しない製品は、安全性に問題が無くとも、買い手から値引を要求される可能性が高い。試験を省略することは手抜きであり、人件費の削減になる。会社の経営を考えると、人件費は安い方が望ましく、売上代金は高い方が望ましい。技術の約束事を破る誘惑に駆られる。

日本の技術力の維持、向上について良く考えなければいけないと思わせる事件だった。